

熊本地震の対応からの教訓

目黒 公郎



東京大学教授



災害対応に関する課題

災害対応(中央政府～被災県～被災市町村の関係)において

中央政府

- ・プッシュ型災害支援に関して(特に救援物資)
 - 実施する、しないの判断基準の確立
 - 発送までの手続きの簡素化と
物資のトレーサシステムの確保
 - 地域別、物資別、生産可能地図の作成

被災県・市町村

- ・受援力不足

全体

- ・役割分担の明確化、災害対応業務と訓練の標準化
- ・業務のアウトソーシング(専門業者、プロボノ他)

短期的教訓

- ・災害対応業務(国・都道府県・市町村)の標準化と訓練の標準化
- ・アウトソーシング可能な業務(救援物資、避難所運営、他)の抽出と実装化→専門業者、プロボノの活用

長期的教訓

- ・災害リスクの高い地域から、低い地域への人口誘導
→人口減少社会では実効性が高い
- ・経費の掛からない防災対策(土地利用制限、災害保険、など)
- ・市町村単位での災害対応経験や教訓の困難さ
→災害対策基本法の改定と都道府県を単位としたシステムへの移行

その他

- ・被災地での元気な老人のケアの課題、平成大合併の影響、
- ・感震ブレーカー(マイナスの影響の認知不足)
- ・BCM/BCP策定:手段の目的化の問題

検討会全体を通じた目黒の印象

I

プッシュ型

検証の目線もプッシュ型と同じ(国からの目線)



被災県や市町村の目線からの検証不足

II

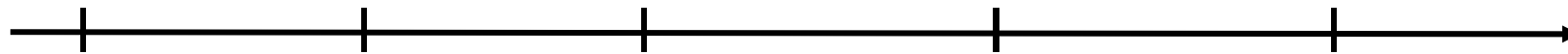
熊本地震への対応
活動のレビュー

課題の抽出

解決策の提案

これで、どの規模まで対応可能か？

1倍(10⁰) 10倍(10¹) 100倍(10²) 1,000倍(10³) 10,000倍(10⁴)



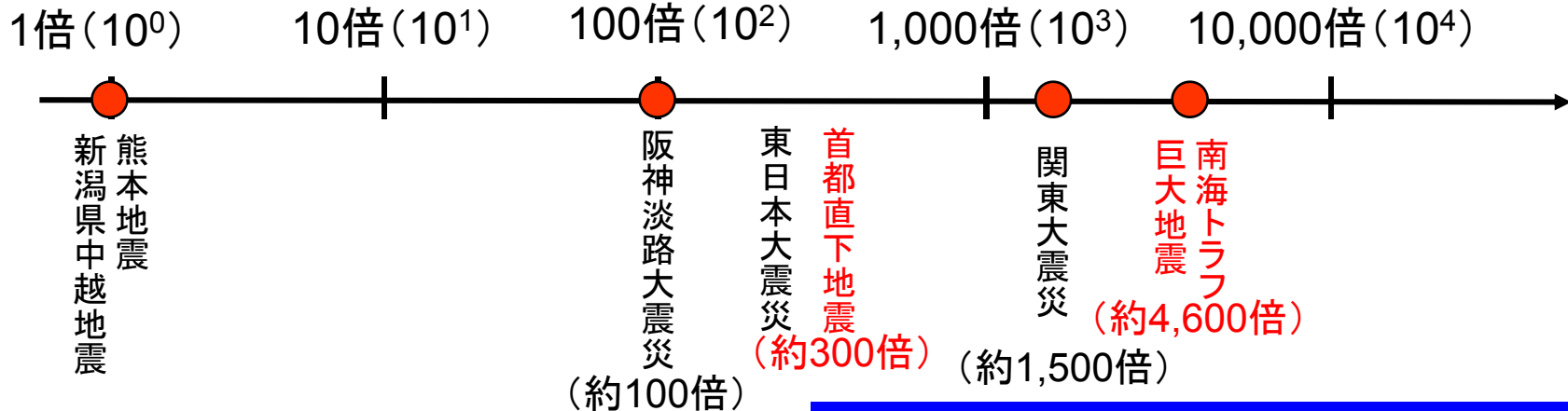
熊本地震

どの規模までの対応が可能か？
(身の丈を知る→改善法の検討)

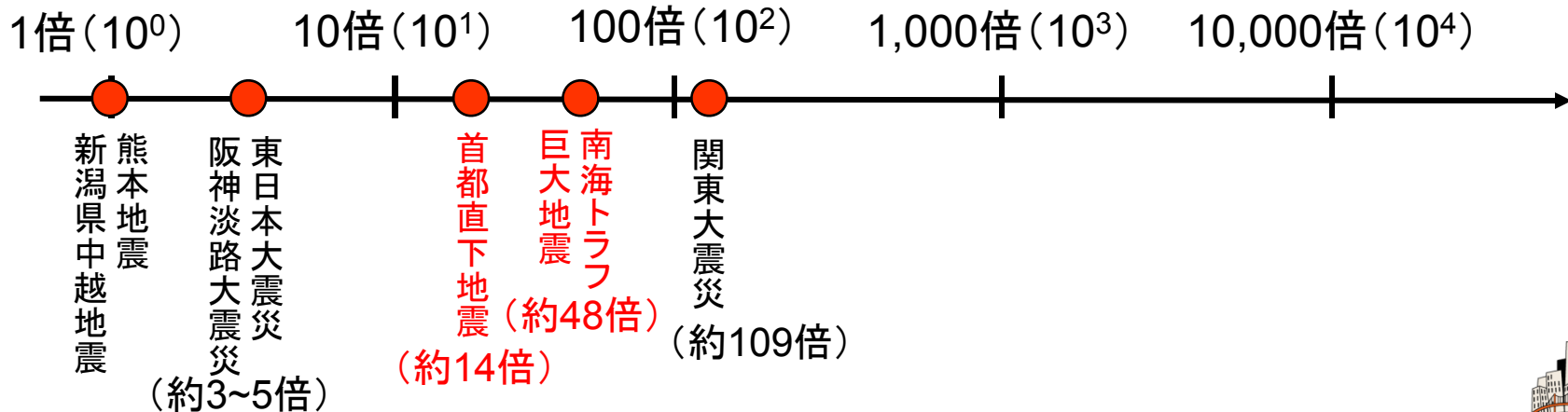


今回の改善策で、どの規模の災害まで対応可能なのか?(1)

死者数



経済被害

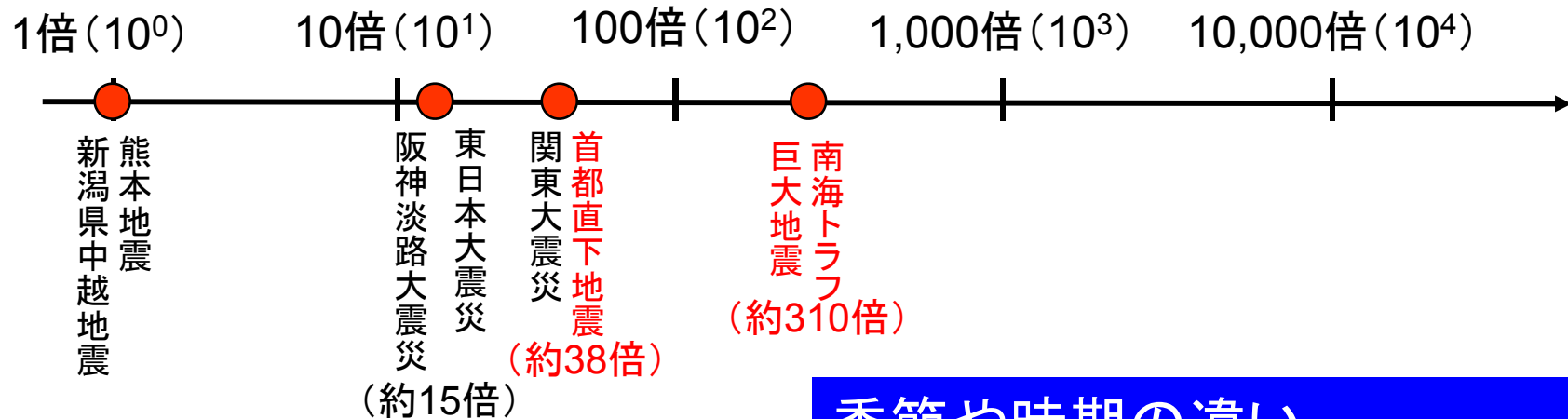


季節や時期の違い
時間差のある連動型地震では



今回の改善策で、どの規模の災害まで対応可能なのか?(2)

全壊・焼失棟数



季節や時期の違い
時間差のある連動型地震では

被災面積(都府県レベルで計上)

